

新宮山彦ぐるーぷ第1854回

大峯奥駈道第6廓「金剛多和・役ノ行者像」

石龕祠屋根修復の顛末について

昨年さん3月に、連休前奥駈道点検山行で玉置辻く本宮迄の点検を行い金剛多和で休憩となった。その時、児嶋さん・大門さんから石龕(せきがん)祠屋根のトタンが錆びて穴もあき、あまりにもひどい状態であり、修復しようとの声があがった。

後日訪問し良く見ると、頭部や胸部にも亀裂が入っている、像もかなり古いもので、砂岩で作られている様だ。ヒビに水が入り冬場それが凍る可能性があつて、修復の必要性を強く感じたが、持経宿改築・太古ノ辻の道標更新・祝賀会行事もあつて、これらが終わった後にと決めていた。

12月に松本 良さんに修復の話をした時、上切原集落からの連絡道は、大崩れで高捲きもかなり厳しいぞ！との情報があった。以後、一番先に荷上げ道の確認・確保の必要性から以下の行動作業となった。

篠尾集落へ出向き情報収集

◇平成28年01月04日 (月) ◇参加者；沖崎。

篠尾側の登山口確認とルート情報の収集に篠尾集落へ。下の坊区長、中村たかる氏よりご教示して頂く。

篠尾集落く金剛多和く上切原集落間の踏破

◇実施日；平成28年01月06日(水)

◇参加者；沖崎、濱野、畑林秀、畑林清。 計4名。

篠尾側の後半部分は、相当荒れていて一ヶ所崩れがあつて、荷上げルートとして使えない。又、金剛多和から上切原間の

崩れも相当大規模で、高捲くにも事前にロープでの確保や段差設置が必要である。途中迄の工事用林道から下山したが、相当時間短縮可能なれど取付の準備が必要。

上切原集落く金剛多和く篠尾集落間の踏破

◇実施日；平成28年01月11日(月)

◇参加者；沖崎、濱野、児嶋、松本吉、中前、畑林秀、畑林清。 計7名。

前日に児嶋さんより砂・パラス計40kgを持込する依頼がある。

本日は、正規ルートの上切原集落より登る。最初の急登・高捲き道の通過など普段1時間強のところ2時間を要した。荷上げは、工事用林道経由がベストと決める。

金剛多和で児嶋。松本両氏は、採寸と古トタンを折ったりして石像への雨漏れを防ぐ応急処置。砂・パラスのデポ後篠尾集落へ。

下山道は、荒れ崩れも在るが、大小森集落の廃村跡や生活道の匂いも残り、皆さん初ルートに感動の様子、篠尾集落で住民の方から昔話など聞く。

本宮行政局と上切原区長・石谷 強氏宅訪問

◇実施日；平成28年01月15日(金) ◇参加者；沖崎。

篠尾などで話を聞くと金剛多和と言っても話が通じず、行者さん・行者さんと言っている様だ。

多和周辺の大半が上切原区の区有林で、上切原区が長年管理している様だとの話から、その修復にはご挨拶しておく必要性を感じ、行政局に区長のお名前を聞き訪問した。

行政局では、世界遺産コアゾーンの関係から計画を聞きたい

との事前連絡があつて、児嶋さん作製の模型を持参した。担当の安井さんは、我々の活動は良く理解されていて感謝されておられ、屋根材として杉皮の提供迄申出して頂いた。

その足で区長宅に行くも不在。奥さんから区役員の中村あきお氏を紹介して下さり、計画の全般について話をするも、自分で決断出来ない区長外役員に話をして、後日電話するとの事で別れた。

仮屋根の修復

◇実施日；平成28年01月16日(土)

◇参加者；松本吉、畑林秀。 計2名。

1月11日訪問した時に、古トタンを利用して応急処置したが、松本さんが気になった様で本屋根設置迄の処置として、新規トタンを持ち込み仮処置して下さる。

荷上げルートとしては、林道(作業道)経由がベストである旨確認された。

電源順視路確認に向く

◇実施日；平成28年01月17日(日)

◇参加者；沖崎、児嶋。 計2名。

行政局に出向いた折に、安井氏から右側に順視路があつて、その利用を勧められ確認の為出向くが、作業道の設置と崩れなどで確認出来ず。作業道から古道への別ルート確認と手掛りロープ設置を行う。金剛多和迄足を伸ばし昨日の仮屋根の新規トタン設置による修復状況を確認。当面、雨漏れの心配は無い。

上切原区中村氏より「金剛多和・石龕祠修復」の電話有り

◇連絡日；平成28年01月18日(月)

役員間で話合いを持った結果、結論は先祖代々「行者さん」に係わった歴史があつて、修復は我々上切原区で責任を持って修復するとの電話連絡があつた。

以上、当ぐるーぷによる金剛多和「行者さん」の修復は、取り止め、上切原区にて修復して頂くことにしました。修復に参集して頂いた方々に御礼を申し上げ、経緯の報告と致します。

(記 沖崎)



上切原側の大規模な崩落



古トタンで応急処置



新規トタンで応急処置